

令和7年12月21日

埴輪のはじまりと東日本への普及

山本亮（東京国立博物館）

1. はじめに 古墳時代のはじまり

○ 今回は、まず埴輪のはじまりとその意義について解説し、関東へと広まってくる古墳時代前期から中期の初めごろ（4世紀～5世紀はじめごろ）が対象となります。

- ・地域の墓から古墳へ 前方後円墳が出現すると、それまでの墓と何が変わるのか
前方後円墳の時代 ― 古墳の形と大きさで社会関係が表示される

○ 古墳の定型的要素 段築・葺石・埴輪など

埴輪の種類 円筒埴輪・形象埴輪

2. 埴輪のはじまりと定型化への歩み（図1・2）

- ・特殊器台から円筒埴輪へ
- ・茶臼山型壺形埴輪から読み解く埴輪の思想
- ・朝顔形埴輪の誕生
- ・形象埴輪の誕生

3. 底部穿孔壺と壺形埴輪

- ・前方後円墳の拡散に比して、埴輪の拡散は遅い
- ・王権中枢で茶臼山型壺形埴輪の使用終了後、東西に拡散する壺の存在（図3）
→ 東四国系二重口縁壺 / 伊勢型二重口縁壺
- ・在来の壺を用いた祭祀と、壺形埴輪は区別できるのか
- ・群馬県高崎市 元島名将軍塚古墳の画期性（図4） : 大型の壺を多量に並べる

4. 神奈川県資料からみる埴輪の東日本への波及

- ・円筒埴輪の拡散
- ・円筒埴輪の存在を背景に大型化する壺形埴輪とその拡散（図5:廣瀬 2005、田中 2005）
秋葉山2号墳の円筒形土製品をどう捉えるか（図6）
伊勢原市小金塚古墳 : 近畿の定型的な円筒埴輪との共通性（図7）
逗子市長柄桜山1号墳 : 円筒埴輪と大型の壺形埴輪が伴う（図8）

5. おわりに 古墳時代中期（5世紀） : 形象埴輪、関東へ

参考文献

- 梅本康広編 2015『向日市埋蔵文化財調査報告書第 102 集』向日市教育委員会・公益財団法人向日市埋蔵文化財センター
- 海老名市教育委員会 2002 秋葉山古墳群第 1・2・3 号墳発掘調査報告書―第 5～9 次調査―
- 久保哲三編 1985「伊勢原市小金塚古墳発掘調査報告」『専修考古学』第 2 号 専修大学考古学会
- 公益財団法人向日市埋蔵文化財センター編 2015『元稲荷古墳の研究』
- 逗子市教育委員会・葉山町教育委員会 2012『国史跡長柄桜山古墳群第 1 号墳発掘調査報告書―史跡整備に伴う発掘調査―』
- 高崎市教育委員会 1981『元島名將軍塚古墳』
- 田中裕 2005「壺形埴輪と東関東の前期古墳」『千葉県文化財センター紀要』24 財団法人千葉県文化財センター
- 奈良県立橿原考古学研究所・一般財団法人橿原考古文化財団 2025『桜井茶臼山古墳の研究―再発掘調査と出土遺物整理報告―』
- 橋本博文 1976「東国への初期円筒埴輪波及の一例とその史的 위치づけ」『古代』第 59・60 合併号 早稲田大学考古学会
- 橋本博文 1980「甲斐の円筒埴輪」『丘陵』第 8 号 甲斐丘陵考古学研究会
- 廣瀬覚 2005「壺形埴輪の大型化とその背景」『新修茨木市史 史料集 8 將軍山古墳群 I』茨木市
- 廣瀬覚 2015『古代王権の形成と埴輪生産』同成社
- 森岡秀人・西村歩 2006「総括」『古式土師器の年代学』（財）大阪府文化財センター
- 山本亮 2017「近畿からみた伊勢型二重口縁壺をめぐる諸問題」『Mie history』Vol.24 三重歴史文化学会

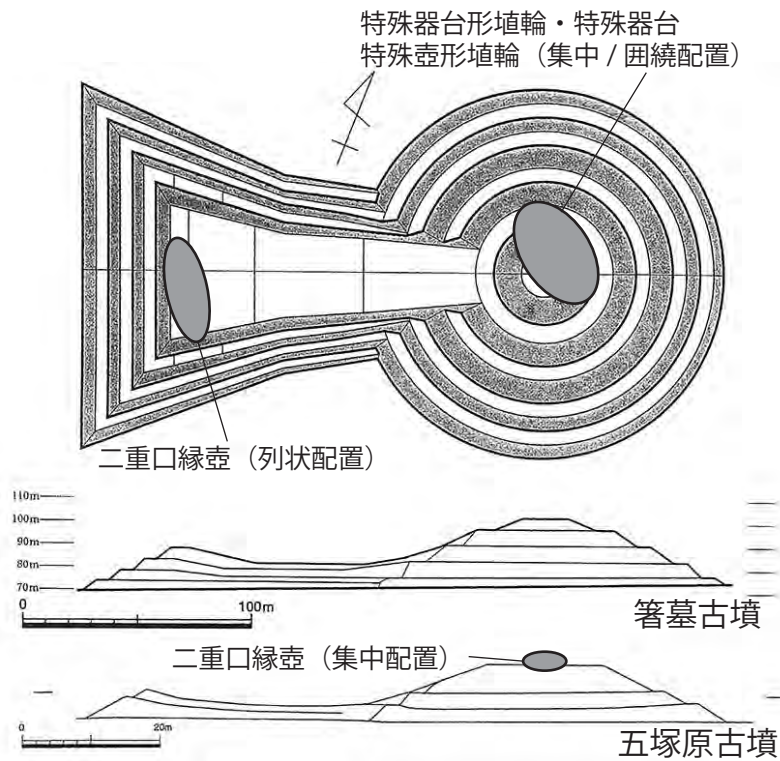


図1 箸墓古墳と五塚原古墳における土器・埴輪の配置 (梅本編 2015 改変)

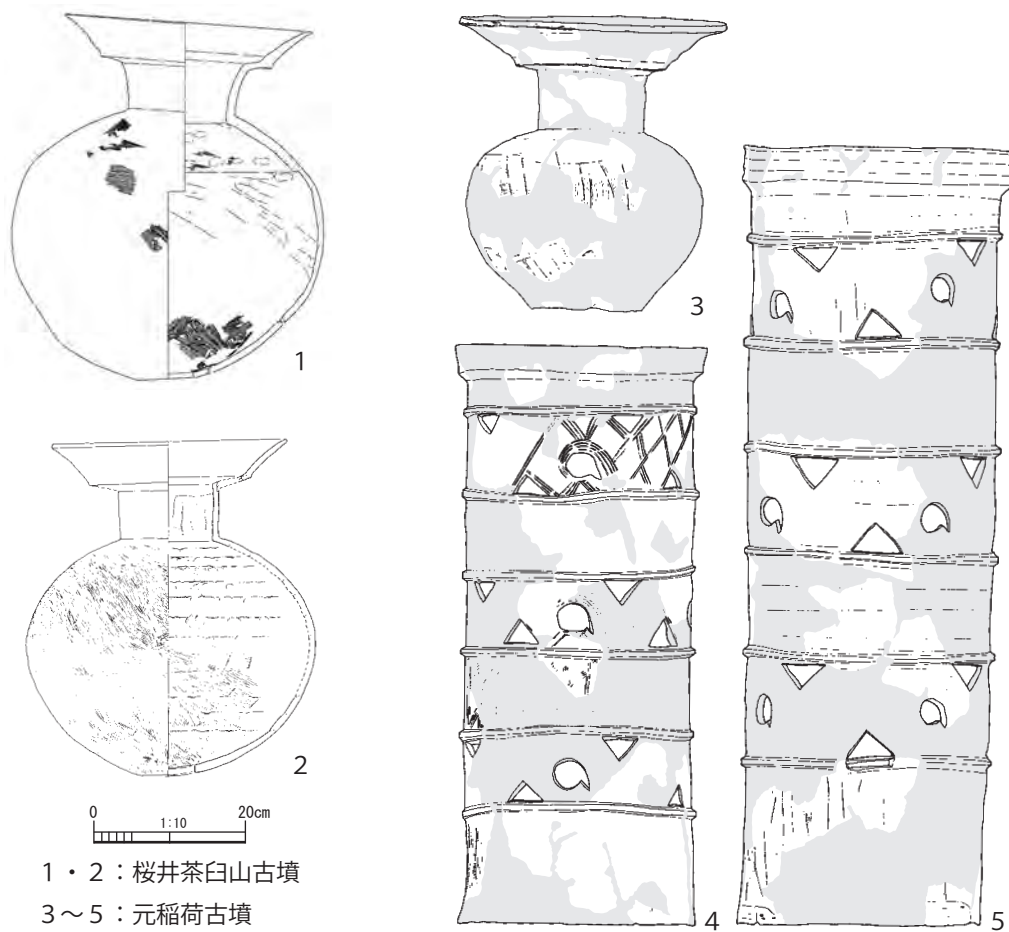
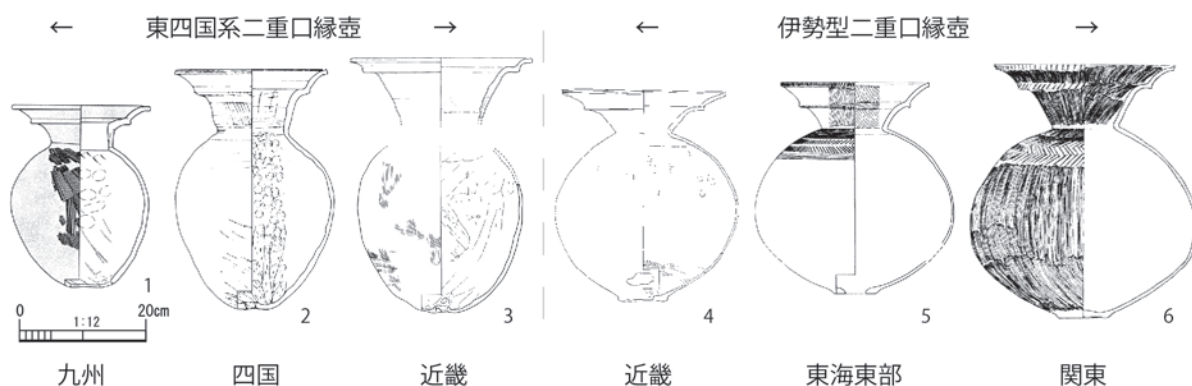


図2 近畿地方の壺形埴輪と特殊器台形埴輪の事例
(奈良県立橿原考古学研究所ほか編 2025、公益財団法人向日市埋蔵文化財センター編 2015)



1：三国の鼻1号墳、2：権八原C号墳、3：壺井御旅山古墳、4：東殿塚古墳、5：小深田西1号墳、6：下佐野遺跡寺前地区3号方形周溝墓
 図3 近畿地方の東西に広まる東四国系・伊勢型の二重口縁壺（山本 2012）

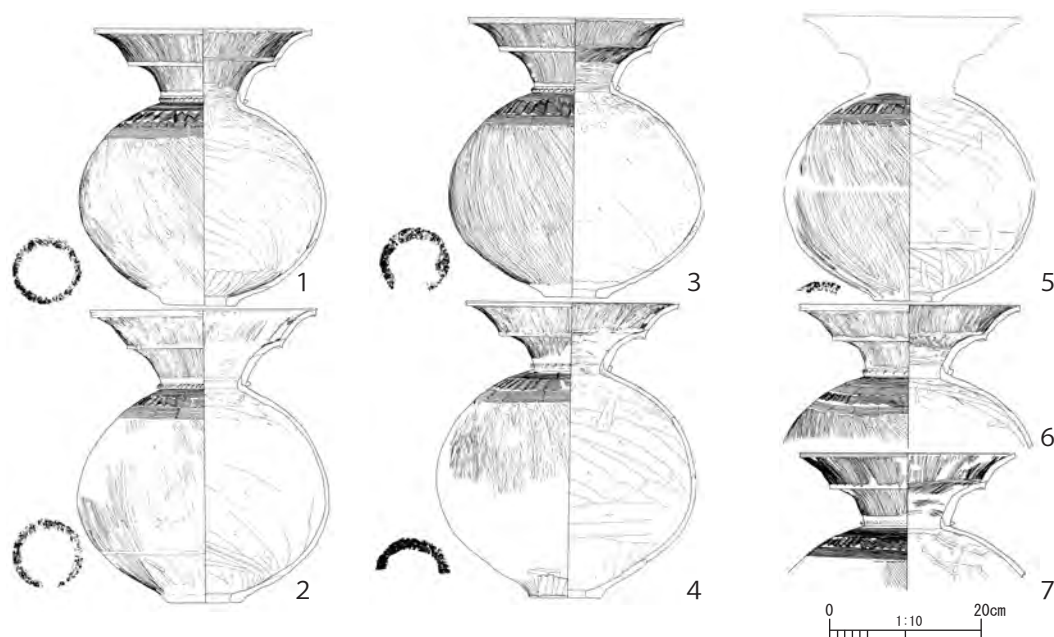


図4 群馬県高崎市 元島名将軍塚古墳の二重口縁壺（高崎市教育委員会 1981）

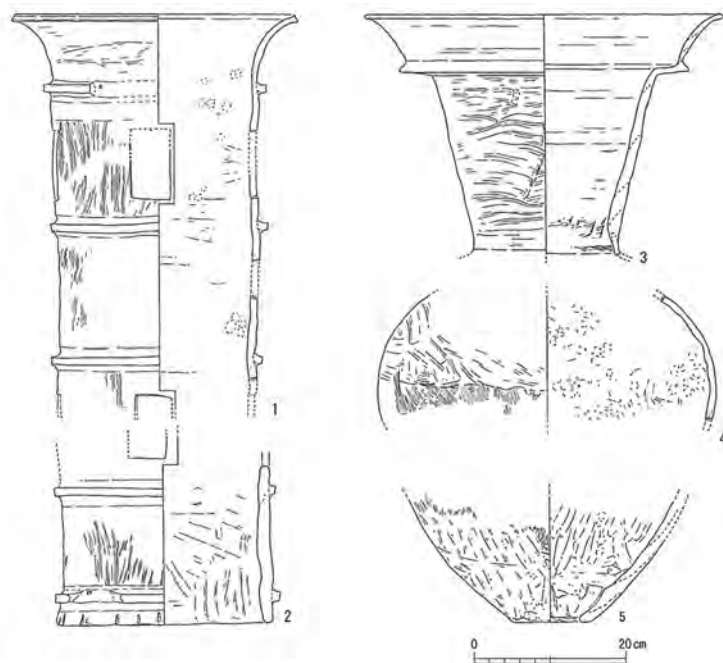


図5 大阪府茨木市 将軍山古墳の円筒埴輪と大型壺形埴輪（廣瀬 2005）

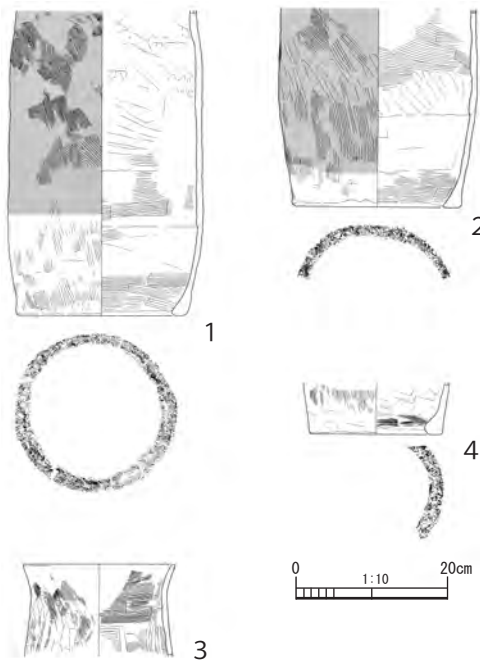


図6 秋葉山2号墳の円筒形土製品
(海老名市教育委員会 2002)

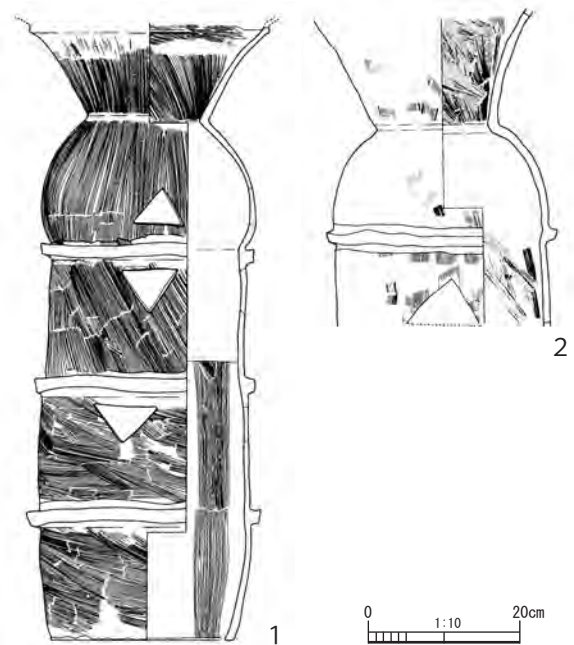


図7 小金塚古墳の朝顔形埴輪 (久保編 1985)

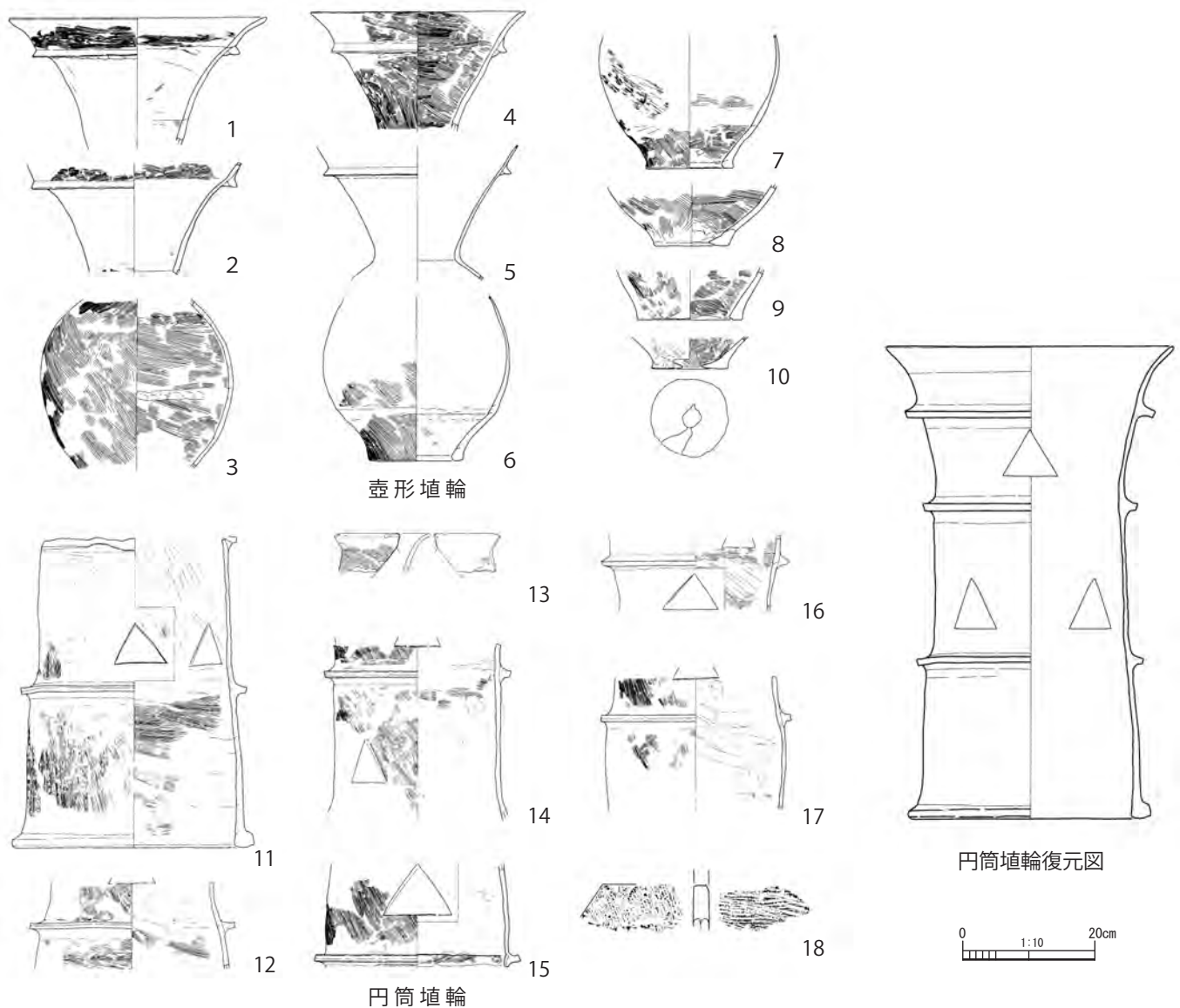


図8 長柄桜山1号墳の壺形埴輪、円筒埴輪 (逗子市教育委員会・葉山町教育委員会 2012)

古墳時代とはにわの年表

作成：山本亮

